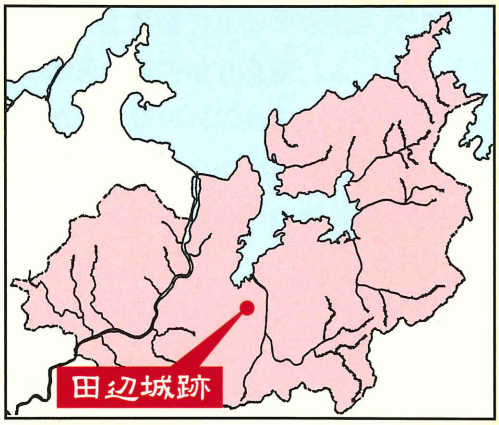
田辺城跡（たなべじょうあと）

細川幽斎が築城の城

場所：舞鶴市字南田辺・北田辺

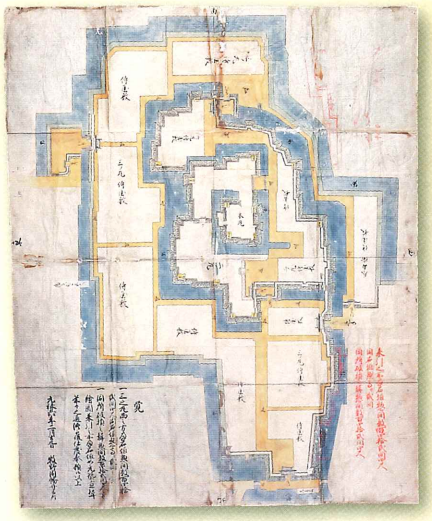


舞鶴における近世の幕開けは湿地帯で田圃が広がっていた舞鶴西地区の平野部に近代的な輪郭式の城郭である田辺城が築城されてからである。

戦国武将である細川藤孝（後の幽斎）が天正８年（1580）に織田勢力の一翼として明智光秀と共に丹後守護一色義清を打ち破り丹後国を平定し、丹後国へ入国した際に最初に居城としたのは宮津の八幡山城である。その後、丹後の中心であった府中から離れて天正９年（1581）に宮津城を築城し丹後国の居城とした。その後、田辺城は宮津城築城後に細川藤孝の隠居城として天正期末頃に築城されたとされている。

田辺城は舞鶴西地区に広がる沖積平野の中央部に位置する近世城郭で、現在はその大半が舞鶴西地区の市街地となってしまったが、本丸と二ノ丸の一部が舞鶴公園に残る石垣から偲ぶことができる。城域は南がJR西舞鶴駅の北側に残る水路、西側と北側は国道27号線、東側は伊佐津通りの南北700m、東西300mの縄張りを持っていたと今に残る田辺城絵図によって知ることが出来る。また、水路や道路などに城であった痕跡が今も残されている。

城の縄張りは、慶長５年（1600）の田辺籠城戦で各諸将の陣地配置を描いた絵図から城の南に追手、城下町に面する西側に搦手の門が配される。そこから二重・三重の水堀と塁壁とを廻らせた、本丸・二ノ丸・三ノ丸と南西方向の外郭からなる。城の南・東には田圃や湿地帯が広がり、西には城下町を配している。本丸西側には四周を堀で囲い、石垣が設けられた天守台がある。天守閣は天守台の規模が小さいことなどから存在せず、櫓程度の建造物があったと推定されている。石垣も、門周辺や本丸といった主要地点に限り配され、その他は土を積み上げた土塁を廻らせ土塁上は竹藪となっていたようである。石垣は自然石を用いた野面積で、その石垣の積み方から穴太積みと考えられる。各石垣には若干積み方に違いがあり時間をかけて築城したことを示している。また、石垣の基礎部には土台木が置かれており、低湿地に築城された石垣の土木技法を知る貴重な資料と



田辺城絵図

なっている。また、石垣以外の地点も築城時にシダ等を敷き詰めその上に整地土を盛り上げる工法を取っている。慶長５年の田辺籠城戦によって丹後国における田辺城以外の城郭は焼き払われ、籠城戦・関ヶ原の戦いから細川氏が豊前へ転封するまでの間は丹後国における居城となっていたようである。

本丸石垣と彰古舘

細川氏が関ヶ原の功績により豊前へ国替えとなると信州の京極高知が丹後国の国主となり、田辺城へ入城した。慶長６年には城の改修普請が始まり、三ノ丸が拡張されるとともに天守が本丸に取り付けられるなど城内の整備も併せて行われた。城域を南側へ延ばした結果、南に走っていた若狭街道は城下町を通って北側経由で東に走る形となった。元和８年に京極高知が死去すると丹後国は宮津・田辺・峰山の三藩に分割され嫡子の高広（宮津藩主）が田辺城の諸門・櫓等を宮津城へ移設したため城内は荒廃してしまう。

寛文８年に京極氏は豊岡に国替えとなり、代って牧野氏が藩主となり田辺城を居城とする。入城後に荒廃した城の整備をおこない、その後は災害等による崩壊・修復を繰り返して明治を迎え、明治６年に田辺城は廃城となり明治７年から取り壊しが始まった。その後、明治期の写真には石垣と田圃が撮影されているものがあり、堀は田圃に利用されて石垣の全部は取り壊しはされなかったようである。

現在は舞鶴公園に残る石垣や田辺城のシンボルとして建てられた田辺城門などによって面影を残すのみとなったが、田辺城まつりなどが開催されるなど人々が集う場となっている。

二ノ丸石垣

本丸と天守台石垣